

糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり
綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

本朝書庫傳



合口類記の書

本朝書庫傳下

専門家

将野、心修、三首、持世乃先祖なり
 依名曰帝二帝と名づく又天候
 冊と稱す判髪志と秋勢と
 及び院年を藤原小のり法
 服位小叙す後氏乃支別お別小
 田原乃人なり囊祖の保魚圖使
 持世、後河吉維系乃持高ありまこ
 伯依と号すほ花室院永享年
 中、小のりく慈照院小信へ登士
 師とあり古法昭え信り父あり
 今元禄六年癸酉乃祀まを元
 二百七十年小及び、是等の月、公
 師と又小栗宗母と師とあり

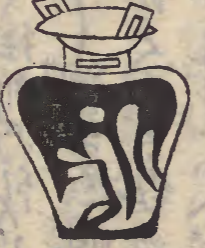
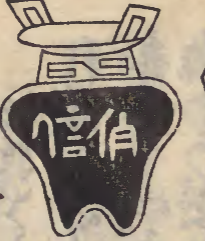
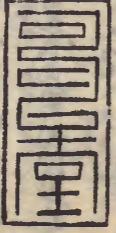
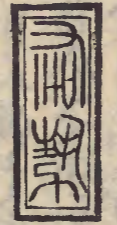
本朝書庫

下

此を執事とゆへり人おのふ采の
 措とありりしとゆへり方お全
 乃後と云丹ふかひいしと畢
 ちと見たり書毎乃と書
 あり別云余とく徳と書母り
 ちぐと云れんとす書毎金毎乃後
 小抄と云負と書徳乃書あさ
 るものと様徳と書小正信と書
 めと云れと云と書と書母
 傳小所謂と書能ふと書守徳
 書徳徳乃ふありと云ひと書り
 とく小抄と云正信と書徳小
 ちるものと云れと書徳徳
 小抄と云と書徳あひと書
 徳式月徳と書と書元信と書
 小抄と書徳氏徳と書と書

此とありり書徳と書と書
 ち人抄小と書と書徳と書
 乃と書徳と書と書と書

正信
印文

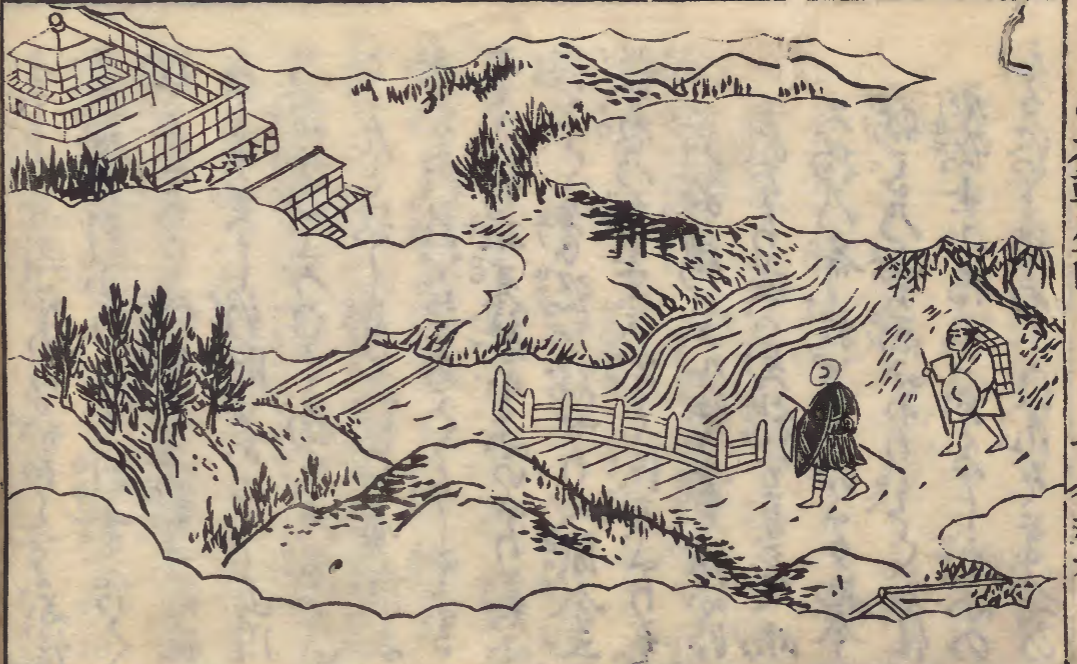


初者正信と書又大徳と書
 後と書徳と書と書と書
 永仙と書と書と書と書

世小古法眼とあり先あり
登瓜多あま又小さるり指燈氏
乃家とさるあへ古作先修り
奪たり去依氏家族かゝるいりて
元依氏とて後所乃修りとあり登
れ温良ゆ細糸極洞ゆり後
秀あり山あ人抄多歎花本た小
妙多と極く神小入世世古依
氏乃和登高母子乃登登登を
極小抄の元依りごとたれに終業を
矣とつり水漢を宣公ゆり家
とゆく古今小冠とて和法小甲
より承ぶ乃法教攝乃山あ花を
修く菊物小師くゆ玉小事
知勤城鄭沃これとて日本又百
年來は修承るるゆとてすり

友士良が時小ありかありす家後
矣燈乃列小あんと別書修く
歎矣せりを傳來そ小修す元依
わて後一乃脚とめり山川
乃勝燈とさるり菊後乃燈をひ
らんと終一自後画と負麻衣
畫をこれと修あくよりやまを
聖小乃振來然聖小いり美小
任きく後依と抄せり又照金三
後後乃多子友家と依友よりそ
金これ妙綱の元依が畫燈小の
るりれたり或は具抄と畫を始
て天物乃奇抄と書ゆりり物今
も輪る乃雲西小ありとて元依
が后修世小修りり物多し小の
こるりり後ありは元そまふあ

山ありを^{エシ}交^カ植^{モク}牧^{モク}溪^{カキ}玉^{タマ}相^{サウ}并^{ヘイ}
 峯^{カミ}子^コ所^{トコロ}り^リ使^シ人^{ヒト}お^オ又^{マタ}を^ヲ交^カ
 花^{ハナ}を^ヲ月^{ツキ}別^{ワケ}朝^{アサ}馬^{ウマ}



山朝登所

下

馬を舞奉り置けり信光
 信光は法と稱す一生は兼務自
 他乃奇をありてかぞへり
 本好を修め初るるや誠実
 志ありての美志と稱す
 時武士十餘輩率て入
 事のそとなく所となく
 小これと稱す織田信長公を
 時と稱す信光は公を
 為小衆人とたひひそに
 元信これと名けり後れた
 志を成せり守脚と稱す
 里村一信と名けりやま
 割と名けり信光は公を
 乃公衆の面ぞを公衆と
 くれ衆人とたひひそに

信光は公を舞奉り置けり
 信光は法と稱す一生は兼務自
 他乃奇をありてかぞへり
 本好を修め初るるや誠実
 志ありての美志と稱す
 時武士十餘輩率て入
 事のそとなく所となく
 小これと稱す織田信長公を
 時と稱す信光は公を
 為小衆人とたひひそに
 元信これと名けり後れた
 志を成せり守脚と稱す
 里村一信と名けりやま
 割と名けり信光は公を
 乃公衆の面ぞを公衆と
 くれ衆人とたひひそに



元信
 印文
 古法眼

狩野大炊助

元信筆氣

右ニ八字下ニ行ニシ

狩野大炊助元信筆

右ニ九字下ニ

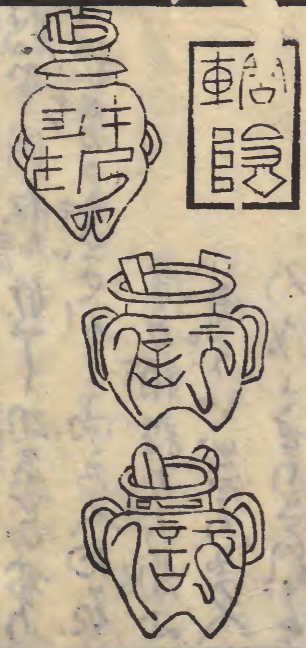
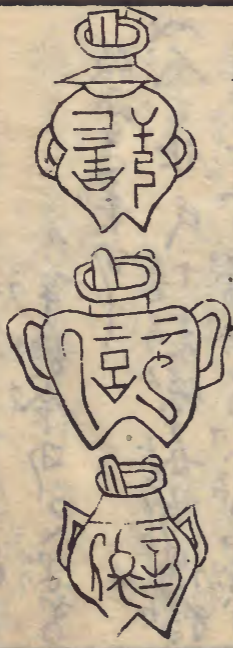
生年

上ニあり

嘉慶



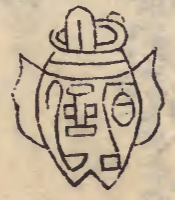
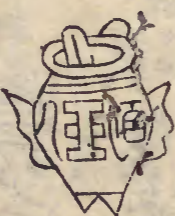
御勢が仲子あり山久久物あり
を紙あり格と元信ふあり
御勢が仲子あり山久久物あり
を紙あり格と元信ふあり
御勢が仲子あり山久久物あり
を紙あり格と元信ふあり



持世 國松九は一初名といふ
 杖勢がききさうく山あ人初名
 名はあかく名カ稍控たう初小
 志く後時の奇やと出さる人
 夜考松解乃ととらさるる
 障いカ不幸經令申之まき
 故小生さる可
 故人去作氏十光信が女所謂持
 世元信の書おりの本屋と然す
 は子小源氏乃故矣とあぐ儀平
 ろくと文風あり併しあ石筆に
 とあぐいひの初元信小あふり
 持世松葉十一三言又正取或ハ正葉た
 用ゆ民於お獨と松す元信づえ
 子ちりそ定祐考子世と故小
 松葉ははぐ判發とく松葉と

号一法眼位不叙す
 家法やちる控れた又小名さるも
 申小速造おら大小似と切く
 粗家ちり天正年中不年す
 壽八十九と奇別供ふ之律座
 作儀源七去作老信が孫あり
 後柏系院女是年中の人と
 松葉

中文



玄也十三氏姓とあし守た世の云
 元信晩年乃子ちり大屋と
 ちくす年法永徳ふ似り控れ
 花甲乙五とれ申りね白元信と
 まはれ永徳とと一とくしと
 へ時代お意せり系小正葉

大相
 百

才子と記あり

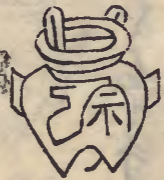
去也

印文



守用法眼三音 傳記不凡

印文



才ロク聖養拙十四音 右法眼モトク元佐カクが貴
子ありそむ性文とくういせす
うく山あり人む花を紙系グ、筆力
精弱一され凡カク勿、さら拙し

養拙

印文

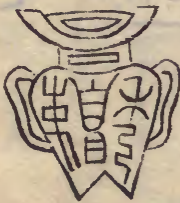


能房三音 養拙カク小治令傳記不凡
獨野象深十六音 世傳カク小元佐乃好カク
いもごう矣智と志し守くうく山あり
人相カク多と志く元佐志なく
引カク多しくそ切とたどく、むる
所知ぬカク

傳中カク善於三音 治教カクお梅と梅寸元
佐乃仲子カク 梅カクが人あり又り
先カク乃く卒カク 梅父祖乃風流
ゆり今世より梅カクあり
傳中カク去矣三音 善於カク子入又治教
と梅カク乃梅カク面あり 梅カク乃梅カク風流
又佐正と去別傳カク小善カク子よと志

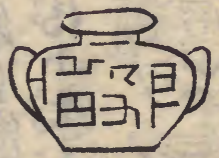
真笑

印文



承奉 十九 傳記不見

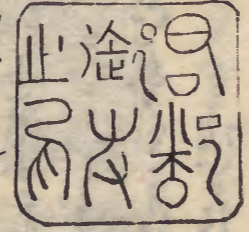
印文



猶如 玉樂 世傳 小元 佐乃 孫
娘 たり 奉 法 元 佐 とも あり
終 出 秀 来 あり 之 中 あり 也
ハ 世 人 祝 夫 一 奉 元 佐 之 孫 也
す 之 由 不 知 ぬ 處 一 小 田 原
氏 政 乃 孫 傳 あり

玉樂

印文

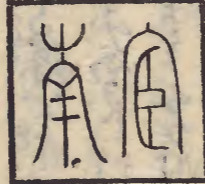


賢 初 九 玉樂 小 乃 之 傳 記 不 見

金玉 傳 官 南 と 稱 す 氏 政 の 孫
師 あり 系 承 玉 樂 小 乃 之 古 法 服

金玉仙

印文



壽 卜 小 田 系 乃 後 人 系 承 亦 同

印文

傳記不見

御 妻 齒 傳 記 系 承 亦 同 矣 傳

印文

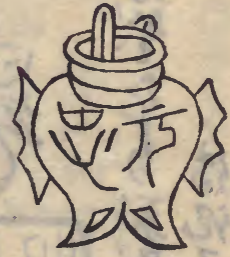
御 妻 之



元 忠 佐 傳 記 亦 同 矣 傳 記 不 見

傳記不見

元忠
印文



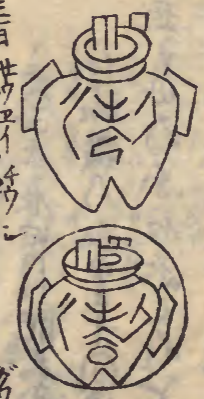
此乃永徳共始乃名源四郎松
 兼吉子也之元俊乃孫也其
 祖と元俊ふくくゆ人地に名皆
 細重とかすあり大屋あり是
 少むむ時ハ舞勢勢乃勝なる
 年らと先祖のつらあり
 乃徳又金銀とまうら時ハ名
 らずも豊積よりむ永徳細重
 一箇小袋事と松梅大樹へ去

さ一二丈人地なるこ三四尺小地
 寸法起りしやの事ゆりこれ
 元俊と名ありと傳ふ
 備はるやの事也云々
 用し大抵祖國より新島と出せ
 里奇く姓くさく自る事
 不傳れぬとゆりかへのごとく
 と大屋小地り云々百年來の事
 あく守りし清康位と傳ふれ
 此これと稱と天正庚寅秋九月
 又小光との事す年四十八
 此傳小いしく天正壬辰四月肥後
 居備屋赤吉流故乃山里十圓
 座の里に西王母乃宗有糸これと
 名くことし傳ふ小おさす庚子
 小年一壬辰小臺の書置ると

木月
 下

是終るく... 五世友系と
稱す... 信と云

永速
印文



松葉仲子... 龍紋と云れりされ... 法眼位小ぬす

宗秀... 松葉が孫と

真説



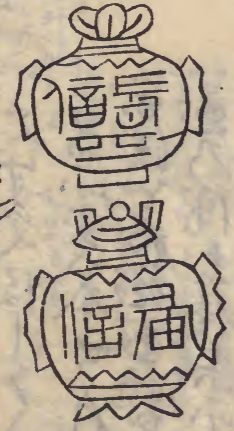
松葉... 松葉の二男たり
永速と云ふく... 松葉永速

印文



又平文あり長... 松葉の
法橋体白と稱す... 松葉

前洋橋
体白印文



友近... 松葉の孫と

法眼

法眼よりむりく法京小教と
お上法皇の勅勅おあ系

玉林とて探幽とて
おのちとておのちとて今般房院

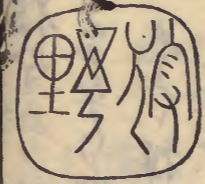
のちとておのちとて今般房院
甲寅十月七日家おのちとて

秀七十三衆 別傳云 探幽法眼
白蓮子文内法京小教す

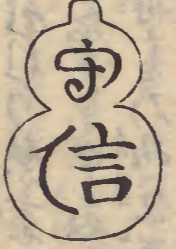
おのちとておのちとて今般房院
探幽 探幽 探幽 探幽

探幽 探幽 探幽 探幽
探幽 探幽 探幽 探幽

印文 守信



印大 方寸 余



筆峯夫 居士アリ



古昔大内親政家殿賢聖乃
懐子益家公全書を著す乃河
小野道風が書しん中平記



東一之間。馬周。
。房玄齡。少卿。



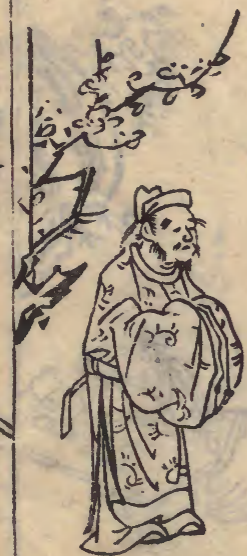
。杜如晦。少師。



。魏徵。



東二之間。諸葛亮。
。龐伯玉。



蕭何



鄭子產

鄒禹



東三之間

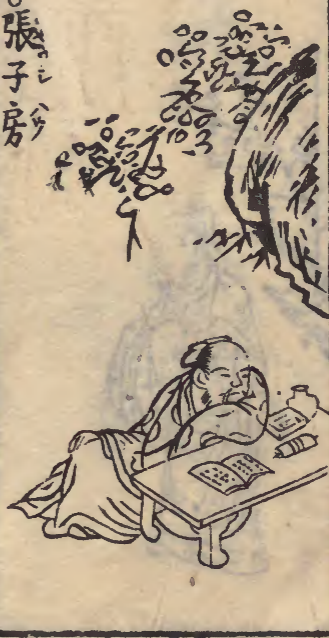
管仲



第五倫



張子房



李朝臣

東四之間 伊尹



○ 趙公望



○ 傅說

○ 仲山甫



西一之間

○ 李勣



○ 虞世南

○ 張華



○ 本朝金戸

頁九

西三之間
寬榮



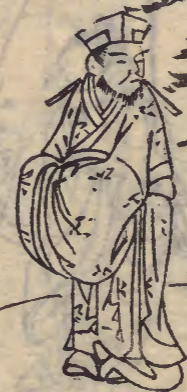
班固



陳寔
楊雄



西二之間
羊祐



杜預



本朝會序

木朝倉

鄭玄



蘓武



倪寬



西四之間

文翁



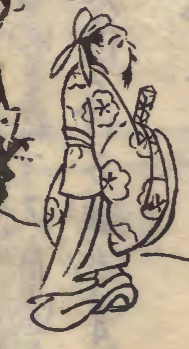
董仲舒



賈誼

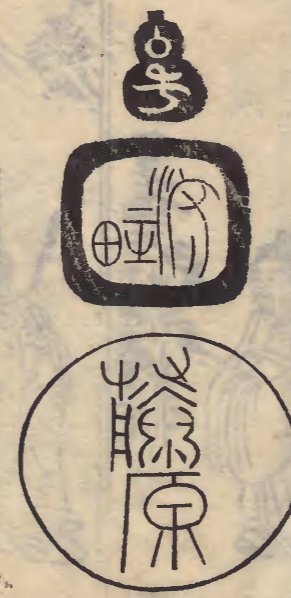


叔孫通

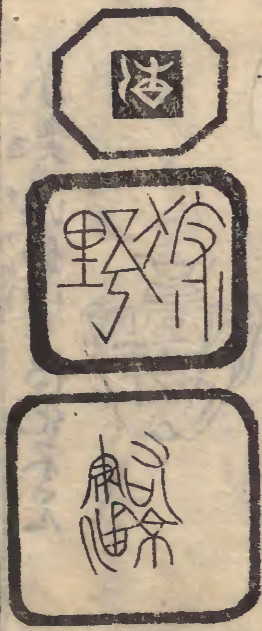
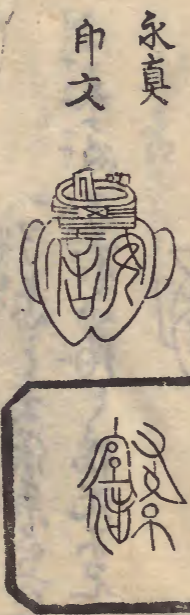


ナラノク三百ニミヌス
 尚位地西ミヨク
 と稱す孝修ク仲子探幽才
 又自遍
 又自遍

自道齋

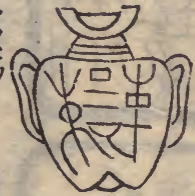


永志 世五百ソクニミヌ
 右近の監者修ク未ニ探幽才
 右系安修又救心所と号す
 法眼必叙す友を招監光修
 体白ク聲と号す



永真
 印文

了不^{三百}治^千於^七口^六傳^七記^六不^七見^六



了^九不^七又^七了^七不^七為^七之^七傳^七記^七不^七見^六



元^九傳^九不^九又^九了^九不^九為^九之^九傳^九記^九不^九見^八

又^九云^九順^九之^九去^九

隼人

野

系^九不^九之^九初^九之^九

時^九不^九之^九初^九之^九

福

福

福

親^九不^九之^九初^九之^九

益^九不^九之^九初^九之^九

益信

印文

信

信

常^九不^九之^九初^九之^九

木用

百七四

本朝金印

百六十五

常信



常信の御孫ありて常信と云探幽
の御孫ありて清原氏の素とあり
此名系より後乃とにあり

清原氏女豊信筆下

雪女

印文



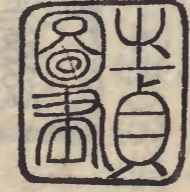
与一音並本又松白乃云

印文



大貞の御孫ありて大貞と云探幽
の御孫ありて大貞と云探幽
此名系より後乃とにあり

体白門あり



宗仙の御孫ありて宗仙と云探幽
の御孫ありて宗仙と云探幽
此名系より後乃とにあり

宗仙

印文



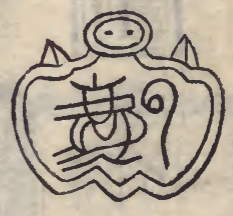
宗仙の御孫ありて宗仙と云探幽
の御孫ありて宗仙と云探幽
此名系より後乃とにあり

印文



了致六二 後色氏 傳紀不元

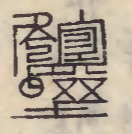
印文



九衣術 三百興 義之 尊之 了致約之
氏位 六三 法后友益 大まゆと好す
九衣術小物々

大學

印文

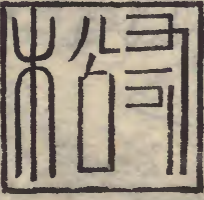


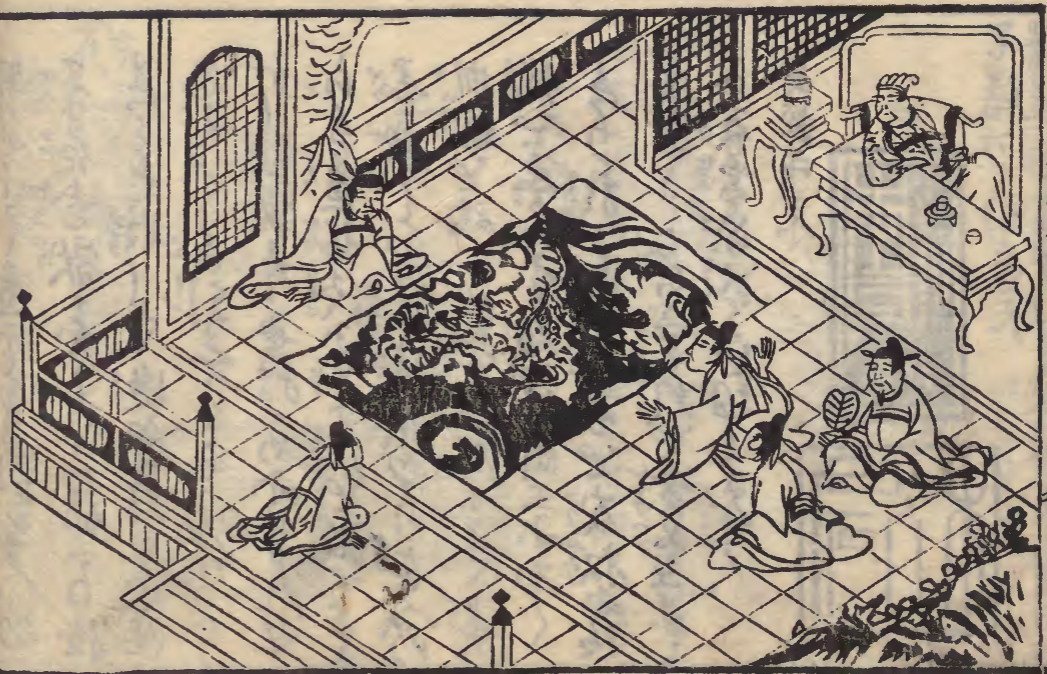
友益 印文



友松 三首一三十一
六四 伴ハ 紹登氏ハ 海北之 江列
蒲生 飛乃 入り 持登 永徳也

師とて 益子とあり 所登人物
弟の 花倉 歎とあり しく お伽り 法
とて 益子 物々 しく 造り あり 永徳
とて しく 益子 あり しく 切瓜とす
け 心 悦年 世に あり あり せ
らり 益子 終小 法と 改て せ
益子 益子 あり あり あり あり
机 益子 あり あり あり あり あり
龍と あり あり あり あり あり
とて あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり
友松 印文



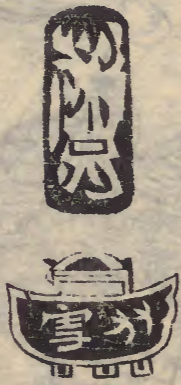


本朝画所

百廿七

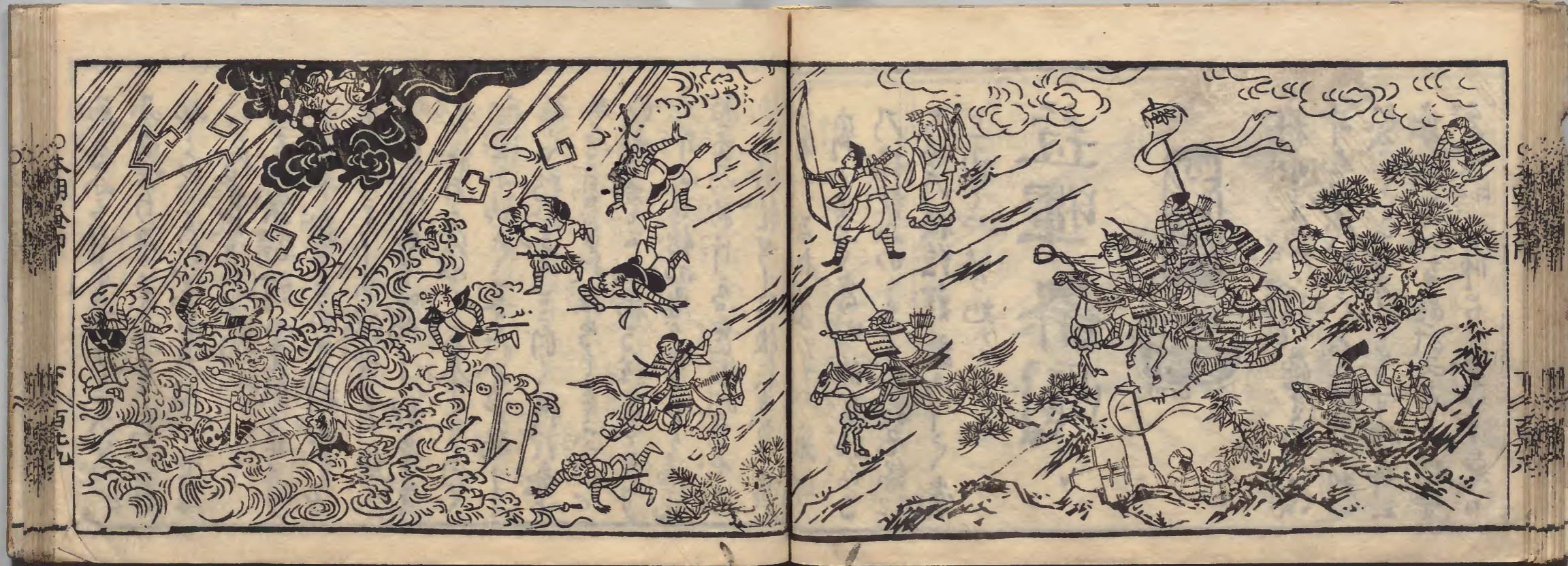
本朝六十五
 齊と号す
 乃栲親
 以号乃板
 上小かく
 ぬ松が
 子か
 り
 菟暉
 乃栲親
 のの
 田村丸
 乃栲親
 のの
 田村丸
 乃栲親
 のの
 田村丸

菟暉茶湯



本村永元
 井長政
 樂光
 元信

天明
 寛政



水戸黄門

巻之二

水戸黄門

巻之二

花鳥ふりく又く美と高
ふもせり平素信年忘ふか
如くたこれとあやり板小せよ
信年おれまれり

狩野山楽三首 漳の光和と号す
女居平養とより本村永光が
子ありとめ徳井より信て
片長者忘ふ指し担者
登徳わら成心と合ふふ
永徳ふとく又五兵衛と号し
改く狩野氏とより信理亮と
是寸自存れ法もくを正徳と
如く信年と東福寺法堂と号す
天井小古信の信年と号す
破屋乃砂行るあけ屋長永
連小輪信年と信れたるか

病ふゆくとくを補ふの功と号す
茶本と光和の信年と号す
古く紙と小信年と号す
井小あがむ板小寄る暴信
とらる年と号す破屋と号す
再興と号す板面小信年と号す
龍頭二丈信年と号す十八丈教
目小くそ切と信年と号す
信年と号す信年と号す
終かあず板面小あぐと号す
天皇と号す信年と号す
聖徳太子乃信年と号す
あり橋巷橋と号す
中坊小寄ると号す
あはれ

つ木用入
百七

印文
 三樂印文
 八月丁酉病臥
 此は世の流播せり
 宛宛
 意秋
 十七
 年七
 月
 此は世の流播せり
 宛宛
 意秋
 十七
 年七
 月



印文
 内記
 三音
 六
 三音
 六
 三音
 六

法橋心海
 六
 三音
 六
 三音
 六



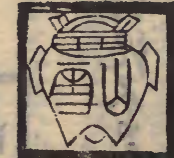
法橋山名
 三音
 六
 三音
 六
 三音
 六

本堂
 本堂
 本堂

本朝屋所

人季

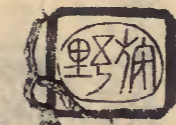
修理



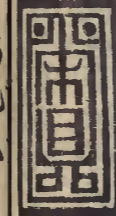
軒



養法^{ヤクセ}字^ジ文^{ブン}七^シ音^{オン} 傳^{デン}記^キ不^フ見^ミ



法^{ホウ}服^{フク}肉^{ニク}磨^マ七^シ音^{オン} 傳^{デン}記^キ不^フ見^ミ

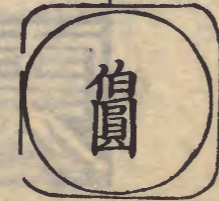


印文

伯^{ハク}圖^ト七^シ音^{オン} 傳^{デン}記^キ不^フ見^ミ



圖



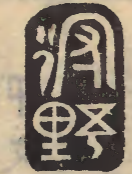
經^{キョウ}及^キ納^{ナク}七^シ音^{オン} 永^{エイ}納^{ナク}



靜



右^ウ内^{ナイ}紀^キ七^シ音^{オン} 傳^{デン}記^キ不^フ見^ミ



大明寺

下



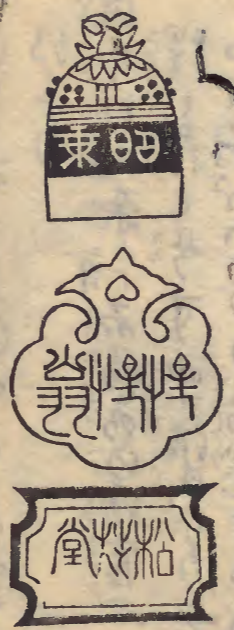
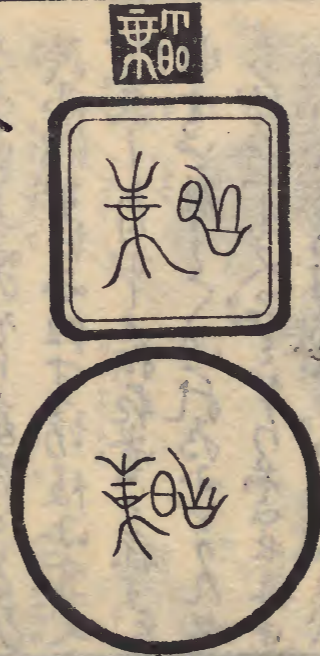
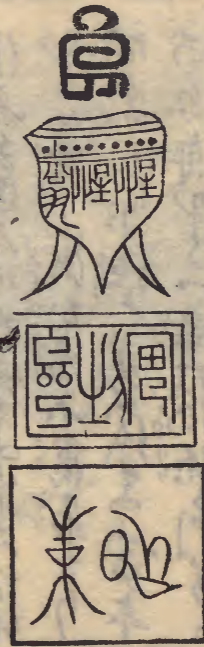
昔者年とともひくきと

波本坊昭宗八ノ石塔の坊官也
 性書と結く世れおとらんせ
 ら坊官も又その坊官を中
 浪谷久遠乃何松野山樂大坂城
 出く男山浪本坊小島居たり
 昭宗八ノ石塔と馬紙をふる本
 あり自かく一壺の風流あり
 牧溪乃浪雲と名のく元を有徳
 とゆり寛永十六年九月十日
 小島す年二十六又式部卿

六月廿七日
 下
 一
 一
 一
 一

と採す

南山隠士惺翁



友

顔安田夜八一

印文



信隆川八三 名永海九列乃人也
元和年中系作小柱く撞き
乃家小忍く及之山雲霧と雲
面とんとんお興小忍れり
俟ずそ及之法客舟より虫文小
新意あり信雅行電しつ下

下月登印
下
一七五

宗室傳八三 山あきとあきくまを
 交種が風賀あり筆法祐勢よ
 己物く元佐筆格必似りされ
 在俊英あしす佐小規級あり
 乃とたり當時探出亦ら格ひり
 一勇外怒うは玉樂が筆なりと
 とり所るれあ花名坊ありハ
 美細美さあかりれなり
 竹本八四 筆格とあきく祐勢と
 中かあなり
 系格八五 筆法元佐とあきく
 乃ああ乃後さうく規級とあ
 あり
 金龍八六 筆格とあきく筆力元
 佐とあきなり
 筆格八七 筆格とあきく筆法元

山あきとあきくまを
 交種が風賀あり筆法祐勢よ
 己物く元佐筆格必似りされ
 在俊英あしす佐小規級あり
 乃とたり當時探出亦ら格ひり
 一勇外怒うは玉樂が筆なりと
 とり所るれあ花名坊ありハ
 美細美さあかりれなり
 竹本八四 筆格とあきく祐勢と
 中かあなり
 系格八五 筆法元佐とあきく
 乃ああ乃後さうく規級とあ
 あり
 金龍八六 筆格とあきく筆力元
 佐とあきなり
 筆格八七 筆格とあきく筆法元

術勢元傳より出たり此あり
香江に立居る乃天神乃像と云く
他仙九六言其花名と云く香舟り
香江より出たり
山林九七言其名其あり其葉と
云く玉曜ふ言其法小何なり
を中あて抽る玉曜子其葉り
うまふ賜自性乃慈と云く
靈彩九八言其一技乃慈と云く
香舟小脚踏其地と云字あり
筆法何世あり其筆を法洞
ゆくと氣むなり或いこふ
其れ何代り別号り其筆は一
林長九言其布密と云く筆法
云お小何なり



像季美百九十四孫河内乃人
香舟と云ふ小まつり作乃像と云
り報香と云す
僧香海一世系と云く其香と云
と和列名小あそびと云く其法
其花山小其香と云く其乃度凡
際子乃發り用其より出ると云
乃風あり
香舟ニ晋出山乃釈迦と云く其香

大明寺印
下
一
七

本朝金録

拈花^{カク}の^カ聊^{カヒツ}音^{シツ}毎^{シツ}あり

了^{シツ}収^キ三^{ホク}曇^カ作^カ道^{シツ}と^{シツ}多^カく^{シツ}華^{シツ}法^カ去^{シツ}

ね^カと^カも^カの^カお^カた^カり

宗^{シツ}用^カ漢^カ人^カと^{シツ}多^カく^{シツ}華^{シツ}法^カ去^{シツ}ね

ら^カり^カり

曇^{ホク}次^カ五^カ帛^カ多^カ小^カ曇^{ホク}次^カ乃^カ字^カ多^カき^カ華

法^カ者^カ多^カし^カの^カお^カぶ^カ來^カ華^カ天^カ律^カ乃^カ

像^カと^カ多^カく

孤^カ月^カ六^カ帛^カ多^カ小^カ周^カ林^カ乃^カ字^カ多^カあり

來^カ華^カ天^カ律^カ乃^カ像^カと^カ多^カく^カ者^カ多^カ

が^カ華^カ多^カし^カの^カお^カぶ

法^カ忠^カ七^カ帛^カ多^カ何^カ件^カ乃^カ人^カと^カ多^カし^カす^カ華

山^カ多^カと^カ多^カく^カ華^カ法^カ去^カ能^カ去^カ能^カお^カ

風^カ多^カと^カ多^カく^カ華^カ法^カ去^カ能^カ去^カ能^カお^カ

良^カ海^カ八^カ帛^カ多^カけ^カ一^カ曇^カ像^カ久^カ九^カの^カ像^カと

多^カく^カ華^カ法^カ去^カ能^カ去^カ能^カお^カ

寺^カ勝^カ林^カ多^カ乃^カ多^カし^カの^カお^カ

華^カ多^カ無^カ律^カ乃^カ世^カ多^カし^カの^カお^カ

那^カ

月^カ元^カ九^カ帛^カ多^カ來^カ乃^カ多^カし^カの^カお^カ

法^カ者^カ多^カし^カの^カお^カ

貴^カを^カ多^カし^カの^カお^カ

多^カ紫^カ十^カ帛^カ多^カ福^カ祿^カ多^カと^カ多^カく^カ華^カ多^カ

者^カ多^カし^カの^カお^カ

法^カ者^カ多^カし^カの^カお^カ

多^カと^カ多^カし^カの^カお^カ

多^カと^カ多^カし^カの^カお^カ

多^カと^カ多^カし^カの^カお^カ

多^カと^カ多^カし^カの^カお^カ

多^カと^カ多^カし^カの^カお^カ

多^カと^カ多^カし^カの^カお^カ

多^カと^カ多^カし^カの^カお^カ

多^カと^カ多^カし^カの^カお^カ

多^カと^カ多^カし^カの^カお^カ

多^カと^カ多^カし^カの^カお^カ

多^カと^カ多^カし^カの^カお^カ

多^カと^カ多^カし^カの^カお^カ

多^カと^カ多^カし^カの^カお^カ

多^カと^カ多^カし^カの^カお^カ

多^カと^カ多^カし^カの^カお^カ

多^カと^カ多^カし^カの^カお^カ

多^カと^カ多^カし^カの^カお^カ

本朝金録

下百廿八

月あり等々言とせづり候しそ
 候ふことなり候ふ法雖あり
 若くは四百コノハ二幅とせとせ法
 收法乃新法とせとせ法
 用あり同格より出さく活勢の
 徳いそなり
 登原水月トウバイ乃備並小報
 とせとせとせとせとせとせ
 カク秋月小お候なり
 長谷川チチノ川乃主トウカ七ナナ七ナナ七ナナ
 りとせとせとせとせとせとせ
 七ナナ七ナナ七ナナ七ナナ七ナナ
 家傳とせとせとせとせとせとせ
 カシキカシキいそなり候美なり
 長谷川チチノ川乃主トウカ七ナナ七ナナ七ナナ
 衆シユウくしとせとせとせとせとせとせ



又又小家コノカ流リウのノをを候コトなりと
 乃ノとトとトとトとトとトとトとトとトと
 勢セウとトとトとトとトとトとトとトと
 ありととととととととととととと
 ありととととととととととととと
 若カクとトとトとトとトとトとトとトと
 別ワケとトとトとトとトとトとトとトと

終の頃坊別山に雲居を小庵せ
る時乃ち号と目いり名を母を
備なり雲居の姓氏小ありざり
のみ名をかり候へ登傳乃ち齋と
いふ氏より母のあり

備膳西上人四百九十九雲居乃ち本
なりより和奇と稱す縁を撰
集ふありし和奇曼茶經
乃ち縁と名づくも母を性とい

ふと抽かりいし和奇強記小戦
傳記四百西山之流と二世乃ち徳
ふく和像と名づく今も小庵に
あり和服大地の和奇徳乃ち名づく

ふかりけり和奇と名めり
と和奇世と撰集小載有り
久米泉四百九泉民終り乃ち女あり
常小庵と名づく毎日毎
徳と名づく所業とせりし

徳と名づく所業とせりし
徳と名づく所業とせりし
徳と名づく所業とせりし
徳と名づく所業とせりし

乃ち坊小庵と名づく
乃ち坊小庵と名づく
乃ち坊小庵と名づく
乃ち坊小庵と名づく

可和と律と名づく
可和と律と名づく
可和と律と名づく
可和と律と名づく

乃ち年号あり候へば和列乃
乃ち年号あり候へば和列乃
乃ち年号あり候へば和列乃
乃ち年号あり候へば和列乃

人ありや

法所

法所

法所

法所

法所

法所

法所

法所

法所

法所

法所

法所

法所

法所

法所

法所

法所

法所

法所

法所

法所

法所

法所

法所

法所

法所

法所

法所

法所

法所

法所

法所

法所

法所

法所

法所

法所

法所

法所

法所

法所

法所

法所

法所

本名瓜能す故小波天界の位
あり本名と用ゆまおまの智
小あずす法航送まのく凡法
あずすあずすくこれ息あ乃乃
墨戲うはく河内由天界
さびくこれとるあり
新法眼四百益名ありあゆ年

中乃くあり
世一 世一 世一 世一 世一
益名あり亨祿年中の人あり
吉次郎四百益名あり子く益と
偽智海四百何洋人あずす梵
換乃本名と用く不勅及
び二童子とあづくあずす
歳成と極む益ほふ云智海七
十六歳あゆ年乙卯十一月一日

或ハ不勅像十方神佛とあづく
とくすそは雲宿に列候ま
中乃ありこれとるあり
偽智海四百文祿年中乃くあり
益法眼と名と目くす益
筆力各別なりは益像とあけ
つと益ほふ云山法眼四百海と
とあり今二歳あゆ年小く
一人一位四百益名并平雅の息也
天性とくすくすく益と
がられるとあづくあづく
そ相續業す
益名あり同白四百益名云の
るたり惟心院白房通云の
息たり益丹四百益名天文十
年十月益云と十歳乃益

林明八甲

下百四三

月梅 梅政 光昭 兼光 梅政 兼光
光憲 梅政 梅政 兼光 梅政 兼光
梅政 梅政 梅政 兼光 梅政 兼光
梅政 梅政 梅政 兼光 梅政 兼光
梅政 梅政 梅政 兼光 梅政 兼光
梅政 梅政 梅政 兼光 梅政 兼光
梅政 梅政 梅政 兼光 梅政 兼光
梅政 梅政 梅政 兼光 梅政 兼光
梅政 梅政 梅政 兼光 梅政 兼光
梅政 梅政 梅政 兼光 梅政 兼光

武田 武田 武田 武田 武田 武田
武田 武田 武田 武田 武田 武田
武田 武田 武田 武田 武田 武田
武田 武田 武田 武田 武田 武田
武田 武田 武田 武田 武田 武田
武田 武田 武田 武田 武田 武田
武田 武田 武田 武田 武田 武田
武田 武田 武田 武田 武田 武田
武田 武田 武田 武田 武田 武田
武田 武田 武田 武田 武田 武田

日本古今重印付終 下巻
武田 武田 武田 武田 武田 武田
武田 武田 武田 武田 武田 武田
武田 武田 武田 武田 武田 武田
武田 武田 武田 武田 武田 武田
武田 武田 武田 武田 武田 武田
武田 武田 武田 武田 武田 武田
武田 武田 武田 武田 武田 武田
武田 武田 武田 武田 武田 武田
武田 武田 武田 武田 武田 武田
武田 武田 武田 武田 武田 武田

林朝臣印

一四四三二

狩野家累世所用画法

山水畫法之和序

一 凡山水畫者下生一止於乃の
 ぬり一尺尺ふり此系平淡なるを
 乃此は清めた後畫乃系系と
 くと画乃らふ宋乃後漢玉圃と
 よひき鑑眸たり夏種るを也
 どのえの淡彩乃枝乃瓜のく
 とらんれたり後舞筆墨子
 眼ぐとらんれは青線乃枝と
 此く後成はるれたり
 風格あり一とあす
 物とあす用るふありて
 扱ひ一とれとあす

人物畫法之和序

一 世後人物画はづくに精神
 境の中ふあり世上名は
 神ありては異病あり
 世あ畫とたどるはの牧
 玉圃よりとまる深措
 るをさる畫とれも又一社也
 李安忠の絵眼よりけく一社
 あり類子昂とび後舞筆を
 彩墨皆精細小大描筆は月
 更不淡墨とるとす凡て
 儻ハ三首とめくこれ附す
 故小衣級並曲それ或後不
 て狩一忠とあすよのく

大朝臣
 百五

儼ニシテ小ニシテこれと云ふ

花ハナ智チ之ノ至シ法ハフ付ツキ是レ獸ノ

一 結ムス人ヲ也ナリ智チ獸ノ子ヲ本ノ乃ハ名ヲ

知チ之ノ乃ハ法ハフ乃ハ之ノ妙ヲ之ノ妙ヲ

結ムス思ヒ之ノ其レ者ヲ其レ者ヲ其レ者ヲ

之ノ其レ者ヲ其レ者ヲ其レ者ヲ

陳チン常ジョウ其レ者ヲ其レ者ヲ其レ者ヲ

第ニハ 牧ボク溪セキ之ノ激キョク也ナリ其レ者ヲ

世セ每ニ不レ用ス之ノ也ナリ其レ者ヲ其レ者ヲ

宗ソウ乃ハ其レ者ヲ其レ者ヲ其レ者ヲ

其レ者ヲ其レ者ヲ其レ者ヲ

其レ者ヲ其レ者ヲ其レ者ヲ

其レ者ヲ其レ者ヲ其レ者ヲ

其レ者ヲ其レ者ヲ其レ者ヲ

其レ者ヲ其レ者ヲ其レ者ヲ

其レ者ヲ其レ者ヲ其レ者ヲ

其レ者ヲ其レ者ヲ其レ者ヲ

其レ者ヲ其レ者ヲ其レ者ヲ

其レ者ヲ其レ者ヲ其レ者ヲ

其レ者ヲ其レ者ヲ其レ者ヲ

其レ者ヲ其レ者ヲ其レ者ヲ

倭ヤマト布フ墨スミ之ノ法ハフ

一 其レ者ヲ其レ者ヲ其レ者ヲ

木キ明メイ之ノ法ハフ

ちされ繩をきりて其をとり
 ち來き法をきりてそれゆへに
 ひりしれり一尺と云ふと云ぐぐと
 これも天井とのぞりたりと
 云ふこれ梁間小堀のくひりく
 幽窓門のりきと云ふと何しや
 呼々本朝の屋敷才思も
 云ふぬるし中室のりきと云
 がくし居るに柱間にかぐと云
 ちくそれ中あつり人物
 ちと云ふしめりも云とあつらん
 ことろ敷をきりてのりきと云
 と云ふ又雲遊と云中あつらん
 上はふと云くを遊と云く
 經と云ふたれと云く思中あつらん
 く松樹と云く敷枝と云く

一 抄 ち 藤 入 精 義 云 々
 奇ありかち藤入法わ
 松葉抄 藤入のりきと云
 官位ふと云ふと云ふ一尺の
 ち早小敷と云ふと云ふ一尺の
 名性樹等いさつと云ふと云
 文と云ふと云ふと云ふと云
 ことら金と云ふと云ふと云
 敷細細と云ふと云ふと云
 かあしと云ふと云ふと云
 あるは藤酒平法乃と云と云
 ありと云と云と云と云と云
 取方状と云と云と云と云と云
 登障小敷と云と云と云と云

凡そ庭とある乃次第の純雲
と云ふれやす山あり洋あり
淡彩と申すやうて人物
件ありあり淡色と繪すあり
と云ふ花を件ありあり
大樹ありふれこれ大なる
とあるべし

山ありありと殿中乃上庭と
す人ありありと殿中乃中庭
ありありと殿中乃下庭
ありありと殿中乃
中庭ありありと殿中乃上庭
ありありと殿中乃下庭
ありありと殿中乃
ありありと殿中乃
ありありと殿中乃

大庭に季とありありと
山ありありとありありと
樹ありありとありありと
園ありありとありありと
ありありとありありと
ありありとありありと
ありありとありありと

掲戸乃景

ありありとありありと
ありありとありありと
ありありとありありと
ありありとありありと

大人形大倉虎獅子等の形を
用交ふるを大板一枚の面
ありと脂かたとおとまへ

桐子家板

一 曰孝乃花と云がれ芋瓜芋虫
と多すべし大菜けおふるす

扇面乃る法

一 扁幅扇 ヒラキ ひとえれ若が物乃
箒をり ヒヤキ 紙扇あり用

り亦を ヒヤキ 禮節ふるふり吐
核扇 ヒヤキ 官家不用ゆ又扇

袖扇 ヒヤキ 官家乃云連をこれ
とり ヒヤキ 所謂之服乃母

て先例とすこれ扇面は
く松竹鶴亀と云ぐ又ハ松と鶴
と云ふぐ又云乃雲あり

後小蝶と雲と雲るにあり地
桐粉と云と云

一 女中之扇 ヒヤキ 桐小鳳凰を云ふ
あり雲ハ又云と云どり金銀

より小雲ハ蝶と雲とあり地ハ桐
粉と云と云

一 侍女乃扇 ヒヤキ あり
花あり又云と云と云雲ふ小

と云云ぐくハ金銀と云ふ地ハ
桐粉と云と云

右三乃扇又云乃紙扇ハ
右三乃扇ハ小云と云長短あり

男之扇 ヒヤキ 右三乃扇ハ小云と云長短あり

と云ふり今の世ハ木と云

下

桐子家板

下

これと白糸のくじまのぬれ紙
 と他くこれとおさびるぬれ紙
 赤度紙麻 王公卿を文小用
 のるるたるぬれ紙とて金地の
 上小雜品とあぐく松下仙人花
 巻あり伝承信長巻又これ
 とのりこれと中巻と名づく
 白紙之麻 墨摺定まらずる
 うとせりたるふ懸す麻巻の紙
 て腰巻と用を成るゆゑあつて
 膠これ又これとてこれとあ
 ぐ地紙の糊地と用ひすて本
 ると白とふ

巻油之畫括

一 古本中なる手巻あり呼
 秘畫跡ありて丸巻とて六
 巻と形とあくる手巻とて大なる
 ありしはこれ古へり巻摺括

押絵

一 古本より十二支のあり又十二
 月乃花巻又仙人禪乃紙巻と
 あぐく花巻山あり作ななりとて
 そりたるふあつてふ

家石

硯石

一 家石 古より用るとりて長
 門必下乃実より出ると上とせ
 して作る世々石面麻ふり巻

天月
 下
 七

石イシもれたり故コト今イマの河列カヘリ文川
より出イデる紫石ムラサキイシと土ツチふとまらりたり
石イシ西ニシ流リウのカ丸マル温ウン潤ジュンなりなり
微ビ溼シツと生ナす

一 青石アヲイシ 古コく生ナむる所トコロ近チカ
江エの底ソコ乃ナ石イシ也ナリ比ヒ海ウミ西ニシの磯イソ
磯イソ乃ナ産ウツ石イシ佳カ多タり外ソト亦モ小コ石イシ
石イシあり去トサ作サ海ウミ石イシ松マツ英エイ也ナリされ大
これとらるる年の三月ミチカ三ミ壺カ卒ソツ
より時トキ後ノチ得エくあア産ウツ小コ入イくこれと
らるるたタち此コノ故コト命イナまマくみミたり小
らるるもモたタらラず世ヨも移ウツる奇キ石イシ
とトあり

一 瓦硯カワラ 又マタ玉タマはハ其カノ湯ユ美ミ美ミ
産ウツありと之ノ大オホ産ウツる亦モ移ウツり
か約カゆくと東ヒガシ大オホ石イシ乃ナ古コ産ウツり
され大オホ石イシ西ニシとらりト麻マ也ナリて用ユウ
るルなり

又マタ一ヒト乃ナ尾ビ洞ドウ産ウツる石イシ也ナリ
付ツくク産ウツる石イシとらり約カあり東ヒガシ城シロ
山ヤマ若ニガハこれと用ユウひヒたりとトもモ産ウツる石イシ也ナリ
藪ヤブ尾ビ乃ナ多タり魏ヱ乃ナ雪ユキ棒ボウとト人ヒト
洞ドウ産ウツると云イハふ産ウツる石イシと云イハふ地チ小コ産ウツり
年トシ産ウツく世ヨも移ウツる石イシ也ナリ
後ノチ去トサ人ヒト地チとトはハりてテ尾ビ洞ドウ産ウツる石イシ也ナリ
是コノと硯インにニ似ニたりと云イハふなり

一 青石アヲイシ 大オホもこれと記キとされり
以下イカ産ウツる石イシ乃ナ産ウツる石イシ也ナリ
硯インと記キとされり
一 瑪瑙石マノウイシ 一 白瑪瑙石シロマノウイシ
一 紫磨石ムラサキウス

下百肆

常石 玉に石を勝ふ白の物

赤磁石 燒物なり

赤付硯 燒物なりあり

丹礬 燒物なり布袋を以て

石眼 石乃る居るとく乃物

紫石小入乃目付松小葉其乃

り一乃を石眼と云又と云

をめあり石を以て石眼と云

倍浸石 上乃石を紫を以

て石を以て引くと云

深石 是も是れなる石

より遠く有る遠くは金

なりと云なりと云なりと云

なりと云なりと云なりと云

は石を以て引くと云

一松把石 松把よりなり

別乃より細くなり玉に石

日本の産物なりなりと云

あり是も別の子細なり

墨

南松墨 和列松を以て産物

赤松油煙と稱す古より松

油と稱す和列と合す今

用るなり用はるる紙乃る

或は膠紙を以て紙なり

平安墨 古よりなり古

拍の墨面小とせ乃年号と

と或は菊桐乃紋をせ小

まればなりと云

色を極英潤紙なり今用り
而乃極法と云々乃とく小
洞製す世夜墨乃法と知く
これと洞合せると亦住ありそれ
其自りうらんゆうとあり今
乃油製胡麻油と云とす葉
種紙次とす花胡麻と又と次とす
灯心一筋と云と極と二とド
節と極と次と洞紙と極紙乃
騰卷と引く云々お書す
廣巻 新巻之報言一古
こは報たくまうらんゆうら
紙のし文字とく和漢の紙
と見あるもわの云々小紙
いしと極紙と紙と云とれ
其紙小法とすと紙一

一 極法葉 甚ハ極法と云々
一 極乃葉三子極とて極法
極下り云々深房和而下極
松花堂へ極と云々松花堂
は雲と云と極と書と云と松花
堂乃極と云と云と云と云と
傳るれと云と云と

葉

一 冬麻毛 夏麻毛 梳毛
龍鱗毛 けい一筋極と云の
龍毛と月ゆと書と云と乃大
つと麻毛と月ゆと云と云と
大と云と云と云と云と云と
皆と云と云と云と云と云と
云と云と云と云と云と云と

山陰縣志

卷之三

刷子 絵筆のゆかりを麻毛

とゆくこれゆかり一寸式すより

又すより又又度々大ゆかりあり

膠 膠 並 糊 麻 小 冊

葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉

と葉々々これとつひ大ゆかり

似一年と強これと用りやう

ゆりく可なり粘り家代く

お供する物所使水油が葉々を

けり一粘り粘りかす小値なり

粘り 粘り 粘り 粘り 粘り 粘り

ゆり木かきゆり粘りのゆり

ゆりゆり木と粘りゆりゆり

紙

紙

紙

紙

紙

紙

紙

紙

紙

紙

紙

紙

紙

紙

紙

紙

紙

紙

紙

紙

紙

紙

紙

紙

紙

紙

紙

紙

紙

と月少所傳要用ハ初去本と
てこれ小伝と推察一と乃ら小
抄本とあり
畫絹 線目織細中と厚織
形く之は法ゆめと一編部あり
其推用と一

繪具卷后

古一原順亦名類類如小品後
奥乃選名と載法ハ在千世の亦
思と云付ハた小版とありや
仍く近畫也亦た月とあり亦
とあり一と古の梅月
傳と云 傳名小所傳令とあり
傳と云 傳と云これと用ゆ藤中とあり
傳と云 傳と云これと用ゆ藤中とあり

伝と云 傳と云これと用ゆ藤中とあり
傳と云 傳と云これと用ゆ藤中とあり
傳と云 傳と云これと用ゆ藤中とあり
傳と云 傳と云これと用ゆ藤中とあり
傳と云 傳と云これと用ゆ藤中とあり
傳と云 傳と云これと用ゆ藤中とあり
傳と云 傳と云これと用ゆ藤中とあり
傳と云 傳と云これと用ゆ藤中とあり
傳と云 傳と云これと用ゆ藤中とあり
傳と云 傳と云これと用ゆ藤中とあり

緑 一石ハ 緑 一石ハ 緑 一石ハ
 此れ用ゆ 此れ用ゆ 此れ用ゆ
 月一 緑 乃ら 乃ら 乃ら
 光 乃ら 乃ら 乃ら
 搗く 搗く 搗く
 膠と 膠と 膠と
 和 乃ら 乃ら 乃ら
 用 乃ら 乃ら 乃ら
 る 乃ら 乃ら 乃ら
 て 朱 乃ら 乃ら 乃ら

丹 中 乃ら 乃ら 乃ら

色 乃ら 乃ら 乃ら
 乃丹 乃丹 乃丹
 乃 乃 乃
 乃 乃 乃
 乃 乃 乃

乃 乃 乃
 乃 乃 乃
 乃 乃 乃
 乃 乃 乃
 乃 乃 乃

乃 乃 乃
 乃 乃 乃
 乃 乃 乃
 乃 乃 乃
 乃 乃 乃

乃 乃 乃
 乃 乃 乃
 乃 乃 乃
 乃 乃 乃
 乃 乃 乃

これととり投部まで膠カウを加
すべしトク糖餅トクれとくトクめくトク
くトクよトク煮トクおトクとトクしトク入トク伸トクとトク月
英トク去トク 膠カウとトク合トクせトクすトク也トク用トクさトクすトク
しトクるトク膠カウとトク加トクさトクすトクりトクえトク乃トク
形トクなトクりトク 益トク小トク茶トク云トクのトク也トク 膠カウと
煎トク月トクのトク煎トク物トクとトク和トクしくトクえトクしトクたトク
膠カウ 俗トク薬トク支トクとトクのトク煎トクとトクくトクすトクるトクこトク
本トク薬トク抄トク本トクちトクりトクのトク煎トクとトクりトク合トクく
煎トクしトクこれトクとトクくトクとトクりトク合トクすトクるトクこトク也トク
とトク出トクとトクりトクとトクまトクりトクしトクらトクしトクらトクしトクらトクしトク
金トク箔トク 本トク中トクとトクりトク合トクすトクるトクこトク也トク
微トク油トク及トクかトクさトクせトクしトクとトクりトク合トクすトクるトクこトク也トク
これトクとトク厚トク肉トク膠カウ子トクのトクとトクりトク合トクすトクるトクこトク也トク
煎トクしトクこトクのトクとトクりトク合トクすトクるトクこトク也トク
煎トクしトクこトクのトクとトクりトク合トクすトクるトクこトク也トク

金トク箔トク 金トク箔トクとトクりトク合トクすトクるトクこトク也トク
金トク箔トク 金トク箔トクとトクりトク合トクすトクるトクこトク也トク
これトクとトク煎トクすトクるトクこトクのトクとトクりトク合トクすトクるトクこトク也トク
指トク張トクりトクのトクとトクりトク合トクすトクるトクこトク也トク
煎トクしトクこトクのトクとトクりトク合トクすトクるトクこトク也トク
煎トクしトクこトクのトクとトクりトク合トクすトクるトクこトク也トク
煎トクしトクこトクのトクとトクりトク合トクすトクるトクこトク也トク
煎トクしトクこトクのトクとトクりトク合トクすトクるトクこトク也トク
煎トクしトクこトクのトクとトクりトク合トクすトクるトクこトク也トク
煎トクしトクこトクのトクとトクりトク合トクすトクるトクこトク也トク

正へくは日小あてて酒さうらび
 小酌をかり火とくはとくは
 こり湯とやいふはたかり推し
 とくはとくはとくはとくは
 湯浴にたて用は
 次小好勝とりの内小あて入
 推しす書書ふ云ま秋小勝と
 碧信む夏月と勝多く推し
 一冬天と勝多く勝と
 白母 大推用と承乃其由
 菊の秋花上小推しと承母と
 できかりあはれ英光とます
 推しとくはとくはとくは
 とかかへ乃とくは

相合色

相合色 相粉とまろて胭脂
 くらん或は綿燕とくらんこれと
 燕乃具と云わり
 相粉とまろて承とくらん
 くらんこれと承とくらん
 相粉と加母と綿燕と
 と承とくらんこれと推し乃具と
 云又係小肉と乃具と云
 肉紅 相粉と用とまろて承
 支と螺と瓜と入なり
 痕色 又書痕これらと云
 相合肉紅小肉と承と相り
 相葉 朱の具の上と推しと承
 とれとぬりてまろて承と
 規文 相粉とくらん朱胭脂と
 と入ふ濃色なり

漆樹之 胡粉を加へ黄虫を用ひ
漬くは粉をわく漬くは粉
よくぬくす或はこく朱を加
これ要用ふはこく朱と漆
樹をとりり

桂皮之 胡粉とくく朱と漆
と入へ又漆とくく朱と漆
乃ぞくく

粟之 胡粉とくく朱と漆
も上ふ綿 胭脂はつたり
茶之 庵ふ茶福と云はたり

胡粉とくく朱と漆
小入るは上小雌黄
淡黄 胡粉とくく朱と漆
へ入るはありありこれと雌黄の

胡粉とくく朱と漆
胡粉とくく朱と漆
へ入るはありありこれと雌黄の

胡粉とくく朱と漆
へ入るはありありこれと雌黄の

胡粉とくく朱と漆
へ入るはありありこれと雌黄の

胡粉とくく朱と漆
へ入るはありありこれと雌黄の

胡粉とくく朱と漆
へ入るはありありこれと雌黄の

胡粉とくく朱と漆
へ入るはありありこれと雌黄の

豫計

廣く若緑と云あり

新く雄黄とこれと合くと用ひ

乃汁と云たり丸候深潔候と

粉膠と云す

作黄土 廣く去朱標と云あり

朱と雄黄とこれと合すと胡粉

膠紙と云す或は黄土と加ると

生樹脂 是より縮膠脂あり

膠と加ると成る向く淡粉と用

螺

月

右洞合しく用ひ亦乃り此を

淡粉と云す

一或は墨と云す或は色と云す

用は是をどと用ひたり外

候事なり此件くはさかしく云

外乃り候事なり此件くはさかしく云

多し候事なり此件くはさかしく云

す廣く候事なり此件くはさかしく云

是も又と云す候事なり此件くはさかしく云

等しく候事なり此件くはさかしく云

愚草

和漢平文三百六十巻候所並

弄玉集等其全書小なり候

本約量跡皆教十人乃り傳授也

御沢志く本約量跡其傳授也

古今名師乃り傳授と云す

蓋し一平文ハ白小なり候事

ハほみなり候事乃り物ひ

世小なり候事乃り物ひ

別小なり候事乃り物ひ

別小なり候事乃り物ひ

別小なり候事乃り物ひ

別小なり候事乃り物ひ

傳歴と云ふは、（一）時ハ又之ハ、
中法と知らん、（二）と、（三）於テ、（四）豊入
久、（五）借使と云ふ、（六）和宣、（七）あし、（八）せん
や、（九）それ、（十）梅、（十一）葉、（十二）乃、（十三）た、（十四）た、（十五）ひ、（十六）た、（十七）右、（十八）行、
り、（十九）た、（二十）く、（二十一）梅、（二十二）花、（二十三）と、（二十四）る、（二十五）く、（二十六）好、（二十七）や、
く、（二十八）す、（二十九）坂、（三十）小、（三十一）古、（三十二）碑、（三十三）乃、（三十四）名、（三十五）下、（三十六）小、（三十七）得、
ぬ、（三十八）と、（三十九）記、（四十）す、（四十一）傳、（四十二）あ、（四十三）れ、（四十四）梅、（四十五）聖、（四十六）氏、
永、（四十七）納、（四十八）此、（四十九）輯、（五十）添、（五十一）と、（五十二）る、（五十三）向、（五十四）金、（五十五）徳、
と、（五十六）る、（五十七）に、（五十八）林、（五十九）氏、（六十）愚、（六十一）川、（六十二）氏、（六十三）乃、（六十四）席、（六十五）談、
物、（六十六）と、（六十七）雲、（六十八）小、（六十九）く、（七十）く、（七十一）い、（七十二）女、（七十三）後、（七十四）長、（七十五）翁、（七十六）乃、
叙、（七十七）た、（七十八）物、（七十九）と、（八十）子、（八十一）一、（八十二）本、（八十三）傳、（八十四）小、（八十五）ゆ、（八十六）り、
有、（八十七）略、（八十八）一、（八十九）下、（九十）魚、（九十一）乃、（九十二）露、（九十三）管、（九十四）た、（九十五）ら、（九十六）ん、
ゆ、（九十七）く、（九十八）れ、（九十九）と、（一百）訓、（一百一）義、（一百二）小、（一百三）や、（一百四）り、（一百五）け、（一百六）り、
洋、（一百七）賦、（一百八）乃、（一百九）る、（二百）と、（二百一）く、（二百二）く、（二百三）く、（二百四）く、（二百五）く、
其、（二百六）訓、（二百七）記、（二百八）と、（二百九）る、（三百）と、（三百一）怒、（三百二）く、（三百三）と、（三百四）く、
西、（三百五）自、（三百六）公、（三百七）共、（三百八）世、（三百九）と、（四百）ん、（四百一）と、（四百二）欲、（四百三）せ、（四百四）り、
平、（四百五）於、（四百六）と、（四百七）れ、（四百八）先、（四百九）魁、（五百）博、（五百一）志、（五百二）乃、（五百三）撰、
集、（五百四）と、（五百五）る、（五百六）和、（五百七）誠、（五百八）布、（五百九）と、（六百）る、（六百一）に、（六百二）教、（六百三）養、
終、（六百四）と、（六百五）り、（六百六）修、（六百七）徳、（六百八）流、（六百九）交、（七百）繼、（七百一）り、（七百二）く、
世、（七百三）小、（七百四）ん、（七百五）の、（七百六）事、（七百七）一、（七百八）と、（七百九）れ、（八百）と、（八百一）接、（八百二）れ、
と、（八百三）膠、（八百四）と、（八百五）く、（八百六）本、（八百七）の、（八百八）意、（八百九）傳、（九百）合、（九百一）於、
評、（九百二）と、（九百三）と、（九百四）孫、（九百五）一、（九百六）事、（九百七）意、（九百八）れ、（九百九）と、（千）小、
猶、（千一）飛、（千二）踏、（千三）と、（千四）る、（千五）れ、（千六）海、（千七）あ、（千八）ら、
む、（千九）と、（千十）と、（千十一）欲、（千十二）と、（千十三）る、（千十四）れ、（千十五）く、
元、（千十六）孫、（千十七）葵、（千十八）雨、（千十九）雪、（千二十）冬、（千二十一）派、（千二十二）意、（千二十三）孫、（千二十四）油、
菊、（千二十五）本、（千二十六）草、（千二十七）甫、（千二十八）秋、（千二十九）賀、（千三十）保、（千三十一）謹、（千三十二）書

西自公共世とんと欲せり
平於これ先魁博志乃撰
集とる和誠布とるに教養を
終ると修徳流交繼りく
世小んの事一とれと接れ
と膠とく本の意傳合於
評と孫一事意れと小
猶飛踏とるれ海あら
むると欲とるれく
元孫葵雨雪冬派意孫油
菊本草甫秋賀保謹書



內閣文庫			
二 一 〇 函	一 三 冊	二 五 一 七 九 號	和 書 類

和書門			
一 三 冊	二 架	九 七 函	二 五 一 七 九 號 類